



題字 出口直日

通巻第572号
 発行 大本東京本部
 東京宣教センター
 センター長 浅田秋彦
 〒110-0008
 東京都台東区池之端2-1-44
 TEL 03-3821-3701
 FAX 03-3821-5283
 振替 00160-5-72625
 URL <http://oomoto-tokyo.com>
 Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

人生に汗と油の無かりせば
 四魂五情の紅き血もなし

出口王仁三郎聖師

外で遊び強い体をつくる

総務管理課 吉村 仁

大本東京本部の前には上野公園があり、春は桜、夏は新緑に不忍池の蓮の花、そして、秋には紅葉と一年を通して楽しむことができます。しかし、子供たちはこの四季豊かな公園で遊ぶこともせず、スマホやゲーム機をしているのです。私の子供の頃はまだ、ゲーム機などは無く、自然の中で遊ぶのが当たり前だったので、とても残念なことだと感じます。

私が生まれ育った亀岡市には自然が多くあり、その中でも天恩郷は自然の宝庫で格好の遊び場でした。昆虫を捕まえに、天恩郷中を走り回り、落葉をかき集めて投げ合ったり、万祥池ではザリガニ釣りをして遊びました。特に「登る」という遊びには夢中になり、登りやすい梅、桜から始まり松に攀、そして、最後には大公孫樹（当時は禁足地ではありませんでした）にとレベルを上げていきました。てっぺんまではさすがに怖くて登れませんが、それでも達成感があり、そこからの眺め、景色は最高でした。木登りに飽きると、石垣登り。スタートは万祥池側の石垣。登る前にルートを確認し、手をかける所、足のつま先を置く所を確認しながら登るのです。時には足の置く所が無く、腕の力だけで体を持ち上げて足を引っ掛け、登って行きました。そこをクリアすると次は、大公孫樹へ行く階段横のそびえ立つような石垣でクリアした時の達成感も格別でした。

木登りや、石垣登りにしても、当時は危険だからと言って止める大人はおらず、子供が自由に遊べる大らかな時代でした。高い所から落ちて怪我をする時もありましたが、幸いにも骨折したことはありませんでした。神さまのご守護のおかげもありますが、遊びがロクククライミングですから体が鍛えられて骨も丈夫になっていたのだと思います。今の子供たちは転んだだけで骨折する子がいるそうですので、石垣登りや木登りはともかく、外で自然に親しみ、元気に遊んでほしいと思います。



教主さまお作 灰釉茶盃 銘「無尽蔵」

神と人の関係

人は神の子神の宮

教学研鑽所事務局員 中里 洋

人生の真目的は地の上に

無窮の天国建つるにありけり

〔『大本の道』第三章〕

ここに人の命が誕生し、人生を歩むその目的が端的に示されています。

もともと人の命は与えられたもので、本来的には、親といえども思いのままにはなりません。確かに人の命が地上に誕生するには父親がいて母親がいて、そうして我々の肉体が誕生します。大本では、両親はこの肉体の親であり、その命を司り、心、靈魂を授けてくださった元の親は、正に神さまであると教えています。

神さまは、人に命を与え、人生を歩ませ、無窮、つまり永遠に続く地上天国を建てようとおっしゃる、その意味を考えてみましょう。また、天国をどこにどのようにつくるのかも考えてみたいと思います。

神とは絶大なる統一意志

まず、元の親である神さまのご存在はどうしたら感じることができるようでしょう。

出口日出磨尊師は、宇宙を統一している絶大なご意志が神さまであり、神

さまは万物を創造され、その万物には神さまの神霊が宿っていると示されています。これについて、出口王仁三郎聖師は、次のように明示しています。

一、宇宙の本源は活動力にして即ち神なり。
一、万物は活動力の発現にして神の断片なり。

〔『靈界物語』第六十七卷第六章〕

宇宙の大元霊 天之御中主大神

神さまは五十六億七千万年かけて地球をお造りになったと示されています。そして、実はこの地球はまだ完成途中であり、地上天国の完成が最終目標です。この絶大なる統一意志の根源となる神さまを神道では天之御中主大神さまと称えております。

天之御中主大神さまとは全大宇宙の大元霊、ただ一柱の神さまです。

同じ神さまを仏教では阿彌陀如来、易学では大極、中国思想では天、天主、天帝、キリスト教ではゴット、古代イスラエルではヤハウェ、ギリシャ神話ではゼウス、古代ローマではジュピター、イスラームではアッラー、このように

表現されています。つまり元は一柱の同じ神さまなのです。同じ根源神、大元霊が、その国々や宗派でいろいろな名前と呼ばれているのです。

同じ神さまが異なつた表現をされるのは、私で例えると、友人と会えば愛称で呼ばれ、家に帰れば娘から「お父さん」、嫁からは「すみません」とか「ちよつといいですか」とか呼ばれるわけです。このように、同じ神さまでも、それぞれ地域や宗教・宗派によつてそれぞれの名称がある。万教同根、神さまは一柱であり根源は一つである。これが大本の教えです。

世界は神の三元 靈力体でつくられる

では神さまはどのようにして、この世界や人間をつくられたのでしょうか。

天帝は靈力体の三元を

もちて一さい万有をつくれり

〔『大本の道』第二章〕

このお示しのように、靈力体という三元の働きによってなされたわけですが、この靈力体の三元とは、いったい何をさすのでしょうか。

すべてのものに三元があるというのですから、人間をみてみましょう。霊と

は、心、精神、靈魂にあたります。力は、物を動かすというような力もあります。が、生きる力のような目には見えない力も指します。体は、肉体そのものです。

さらに詳しく述べると「霊」は一霊四魂と分けられ、直霊という一霊のもとで荒魂・和魂・幸魂・奇魂という四つの魂の働きがあると示されています。物ごとに敢然と立ち向かつていく勇気を起こす魂の働きが荒魂、和魂は親しみ、心が潤って仲睦まじくいよう、お互いの存在を認め合おうという気持ち。幸魂は親子、夫婦の愛、友人、朋友の愛、隣人との愛、また主従の関係もそこには愛があるといわれておりますが、畏敬の念、これも愛から発します。奇魂は智から発する情動、本当の知恵、物ごとの真偽を見極める魂の働きです。

それぞれの魂がこの直霊の魂のもとでバランス良く働いています。

続いて、靈力体の「力」ですが、これは運動する力と考えると理解しやすいと思います。天地の運行、これも力です。それによつてうまれる春夏秋冬も力の働きです。天候、気温の移り変わり、物ごとの変化すべてが力の作用です。

人間の体内だと、心臓や肺といった臓器が動いています。これも力の働きです。神さまから与えられた力です。人間が意識的に「今から講座だから緊張しないように心臓のペース配分をしよう」なんてできないですね。

このように神さまのご意思のもとで自然・と働いている力、さらに詳しくいうと、動・静・解・凝・引・弛・合・分



という八つであると示されています。

この八力は動静、解凝、引弛、合分の4つの対となって読み取ることができません。先ほどの心臓や内臓の働きは動と静の働きになります。また、血液は解凝、固まる力と解く力です。ケガをして血が流れる、ところがその血はかさぶたとなって固まり、いずれ治つてそのかさぶたが取れる。引弛とは、引く力、弛める力です。これは筋肉がそうです。腕に力を込め、グッと力こぶを作ると筋肉が固くなり、これが引く力。一方、腕の力を抜いてダランとするとき、筋肉は弛みます。最後の合分は合わせる力と分かれる力です。例えるならば、それは妊娠であり出産です。精子と卵子が結合すると新たな生命が誕生します。そして出産となり母体から別れていきます。これが合分の力です。

神さまが与えられた八力は、このように理解することができます。

そしてもうひとつ神さまが与えた「体」というものがあります。体には三大元素として、「剛・柔・流」と3つに分かれると教えられています。剛とは固くて岩石のような物、自らの意志では動くことのない、鉱物がこの剛にあたります。柔は剛よりも柔らかい物。植物がこの柔にあたります。そして流、これは自らの意志で移動できる動物です。このように鉱物、植物、動物、それぞれが剛・柔・流と示されています。

人の体で考えますと、剛は骨格、柔は筋肉、流は血液に相応します。まさに人は神さまからの剛柔流を分け与えられているわけです。そして人間は、実は神さまのお姿そのものの姿形で作られていると示されています。「神さまはどんなお姿なんだろう」。この疑問を考えると、神さまのご存在を気づかせていただけではないでしょうか。

神の靈力体を観察

これらをまとめたものが、次に示す「三大学則」です。

神の黙示は即ちわが俯仰観察する宇宙の靈、力、体の三大をもつてす。

一、天地の眞象を観察して眞神の体を思考すべし。

一、万有の運化の毫差なきを視て眞神の力を思考すべし。

一、活物の心性を覚悟して眞神の靈魂を思考すべし。

以上の活經典あり。眞神の眞神たる故由を知る。何ぞ人為の書巻を学習す

るを要せむや。ただ不変不易たる眞鑑実理あるのみ。

（『靈界物語』第十三巻総説）

神さまはご自分の存在を自らは仰らず、黙つて示されるわけです。そして私たちはご存在を感じる事ができる。宇宙、天地をじっくりと観察すれば、大元靈の神さまの靈、力、体を感じる事が出来るのです。

人は地上天国建設の存在

神と人との関係を、より深く説いているのが、次の「教旨」です。

神は万物普遍の靈にして

人は天地経綸の主体なり

靈体合一して茲に

無限の神徳を發揮す

（天恩郷「教旨」碑文）

神さまはすべての物に普遍する靈であり、人は天地経綸、つまり地上を治め整える主体者だということです。そこで靈すなわち神と、体すなわち人とが合一する、この神人合一によって無限の神徳が發揮されるわけです。神さまは人を通じ徳を表され、この徳によって地上天国が実現するのです。

法治国家という言葉がありますが、聖師さまは、元来、日本は徳で治める徳治法従の国だったと示されています。それを示す一例が江戸時代、日本にできた学校です。それは世界でも最初にできたもので、現代でいうビジネススクールです。『懷徳堂』という名の、大阪の商人たちが作った学び舎です。その名の示す通り、江戸時代の商人たちは徳

を懐におさめることが大切なことだとわかつていたんですね。学ぶべきことは接客マナーではなく、哲学や倫理学、朱子学といった個人の徳を高めることが中心でした。世の中の万般は徳を發揮することが大事であり、徳を高めるとは、まさに内面、心を豊かにすること、まさに神心になることです。

生まれ赤子の心に

では、私たちは地上天国をどこに築くのか。もちろん見た目の世界が美しくなることは大切ですが、まず大事なことは心の中に天国を築くことです。さらに生まれ赤子の心になるようにと示されており、素直に物事と向き合う気持ち、これが生まれ赤子の心といわれています。全て一切を神さまに任せ、自分の自我に左右されず四魂を全く働かせる、これが生まれ赤子の心です。一切を受け入れ、肯定的に物を見、前に進む、そういった姿勢です。

そして忘れてはならないのは、この世に心からの悪人はなく、全て人の性はみな善であるということです。我々は自分のことも人のこともあわせ、見直し聞き直しのりなおす、これを一日の中で何度も何度も行わせていただき、内面的な徳を高め、神人合一の境地を高めさせていitだくことが大切です。地上天国建設という大きなご神業の一翼を担わせていただくべく、魂の向上に努めることが、人が神さまから与えられた使命ではないでしょうか。

掲載文は、平成28年7月20日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座 講演録の要旨」です。

東光苑秋季祭式講習会

東光苑秋季祭式講習会は、9月24・25の両日に開催され、のべ26人が参加した。初級クラス受講者は、基本動作から正中動作、後取動作、祝詞展巻奏上、祓式行事など、月次祭までの作法を受講。中級クラスがそれに加え、庭上祭、葬祭などを実習した。

なお、初級・中級クラス受講者の内6人が大本祭式認定試験を受験した。

東光苑月次祭

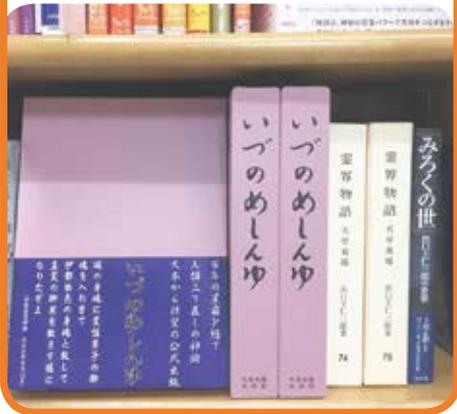
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は、10月9日、午前10時30分から、齋主・高野春樹祭務課長のもと執行され、313人が参拝した。

祭員は関東教区直心会員、少年祭員は東京主会の玉置巴さん、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読は塩田久恵直心会山梨連合会長、添釜は中村社中がそれぞれ担当した。

祭典後、東京本部を代表して猪子恒東京宣教センター次長があいさつに立ち、

書籍宣教活動展開中!!

都内大型書店のジュンク堂池袋本店=写真(南池袋、03-5956-6111)、書泉グランデ(神田神保町、03-3295-0011)で、『いづのめしんゆ』『天祥地瑞』などの大本教典を陳列・販売しています。大本のご神書を、より広く一般の方に触れていただく首都宣教の試みです。ぜひご利用いただき、継続的な活動としてご協力をお願いいたします。電話注文で、天声社の書籍を取り寄せることも可能です。



愛善歌「瑞声」と童謡「月の沙漠」が、美しい合唱で奉納された(千葉主会)

9月にイタリア・ローマで開かれた、「大本ローマ支部設立一周年記念祭典」や浅田秋彦本部長が日本宗教界の代表の一人として出席した「世界宗教者平和の祈りの集いinアツシジ30周年記念集会」など、近々の宗際活動について紹介した。

次いで、奉納行事が行われ、千葉主会による愛善歌『瑞声』、童謡『月の沙漠』が合唱された。

また直会後には、直心会埼玉連合会と関東教区青年部によるバザーがそれぞれ行われた。

家庭平安祈願祭

家庭平安祈願祭(25回)は、10月15日午前10時30分から、齋主・高野春樹祭務課長のもと執行され、49人が参拝した。

祭典では、齋主と祭員が全国から申し込まれた485件の世帯主名を全て読みあげ、家庭の平安と繁栄を祈念した。

祭典後、東京本部を代表して、猪子恒東京宣教センター次長があいさつし「人間社会の不幸の二因である、われよし、つよいものがち」の心を省みること、家庭が明るくなる。また人の死後も霊魂が不滅であることを自覚するだけで、人生に余裕が生まれる」と述べた。なお、全国から申込まれた家庭平安祈願は、祭典後一週間、東光苑の神前で継続された。

大本公開講座

第164回「大本公開講座」は、10月19日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、出口眞人大道場講師(社会福祉法人愛善信光会理事長)が「出口すみこが現代に残したものと題して講話した。参加者は55人(内、一般25人)。

講師は、「出口すみこは、人は天地のご恩によって生かされていることを一貫して説いた。一人ひとりが感謝の心を持つことが大切」として、第二次大本事件での獄中生活や芸術活動、世界連邦運動など世界平和推進に力を注いだエピソードを語った。

参加者からは「何事も修行と、おおらかに生きたすみこ様の大きさに感動した(女性・一般)」、「恵まれた生活の中、人は生かされていることを思い出させていただいた(男性・一般)等の声が寄せられた。

東光苑祭典・行事予定

- 11月
 - 6日(日) 午前10時30分執行
開祖さまご聖誕180年記念・開教124年大本開祖大祭遙拝祭
 - 13日(日) 午前10時30分執行
東光苑秋季大祭
新穀感謝祭・七五三詣り
 - 16日(水) 午後7時〜8時30分
大本公開講座(航空会館・港区新橋)
講題「農は国の大本」
〈今求められる食・農問題〉
講師 小藪資史(特派宣伝使)
 - 19日(土) 午前9時〜16時30分
東光苑葬祭研修会
- 12月
 - 11日(日) 午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭
※当日、天声社の出張販売があります。左の亀岡本社へ事前に注文しておく便利です。
TEL 0771(24)7523
TEL 0771(25)3955
 - 16日(金) 午前10時30分執行
開祖聖誕祭(180年)
 - 21日(水) 午後7時〜8時30分
大本公開講座(航空会館・港区新橋)
講題 人生にとって大切なもの
〜人は何のために生きるのか〜
講師 出口 篁(国内愛善宣教課主事)
 - 25日(日) 午前10時30分執行
尊師毎年祭(25年)



大本東京本部ホームページ
URL <http://oomoto-tokyo.com>